

～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



第17号

令和8年3月発行

京都市教育委員会 学校指導課
幼保小の架け橋プログラム担当

TEL:075-222-3746

第11回 京都市架け橋会議開催 ～来年度に向けて今年度の取組状況と成果・課題を共有～

3月10日に、今年度2回目となる「京都市架け橋会議」を開催しました。会議では、本市の架け橋プログラムの取組状況や、京都市および関係団体が実施したアンケート結果の報告が行われ、今年度の成果と課題について活発な議論が交わされました。ここでは、会議で報告された内容と、委員から寄せられた主な意見をご紹介します。

- 成果…5歳児と1年生の交流に取り組む小学校が70%に増加（昨年度比+30%）
- 課題…①小学校区ごとで取組にばらつきがある
②日程・時間調整が難しく、取組を進める上で課題となっている
③架け橋プログラムの意義理解が全市的に浸透しきっていない

○委員からの主な意見

- ・子ども同士の交流が充実し、子どもが安心して半日入学に参加した。
- ・5歳児の保護者も小学校がどんなところか知りたいので授業参観をしてみたい。
- ・架け橋プログラムの効果を、保護者が身近に知れる情報提供を望む。
- ・「ばらつき」解消に向け、小学校では校長の困りや好事例の共有を進めている。
- ・教員・保育者同士の交流のための調整が難しく、ICTを活用した効率的な繋がりへの検討も必要。
- ・年間計画の調整のために、年度末・年度初めの早めの「架け橋ミーティング」が有効。
- ・『架け橋プログラムの手引き』には意義や好事例など、取組にあたって必要な全てが網羅されており、積極的に活用することが重要。
- ・園長と校長が、お互いの違いを理解し、同じ方向を向いて対話することが成功の鍵。



スーパーバイザー 京都教育大学教授 古賀松香先生からの指導助言

- ・保護者・地域と架け橋プログラムの価値を共有することが重要であり、保護者・地域の評価の把握も大切。
- ・「学校に適應させる教育・保育」から子どもの「好き」や「得意」を伸ばす教育・保育への転換が必要。
- ・進学不安から保護者が早期教育を期待するケースもあるが、子どもが主体的に学校を楽しむ力を支えるといった大人の姿勢が大切。
- ・幼児教育・保育の「遊びを通じた育ち」に学びのヒントがある。
- ・校長の理解・支援が教職員の実践を後押しする。小学校の積極的な姿勢が鍵となる。

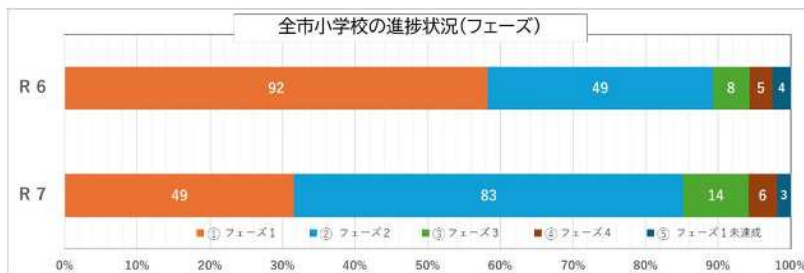
架け橋プログラム全市実施から1年 現状と課題

～各団体実施のアンケート結果の分析・考察より～

京都市では、令和7年4月から幼保小の架け橋プログラムを全小学校区で展開し、まもなく1年が経過しようとしています。昨年、京都市教育委員会及び民間の就学前施設が実施したアンケート結果を基に、現在の京都市における架け橋プログラムの進捗状況や課題などを整理しました。

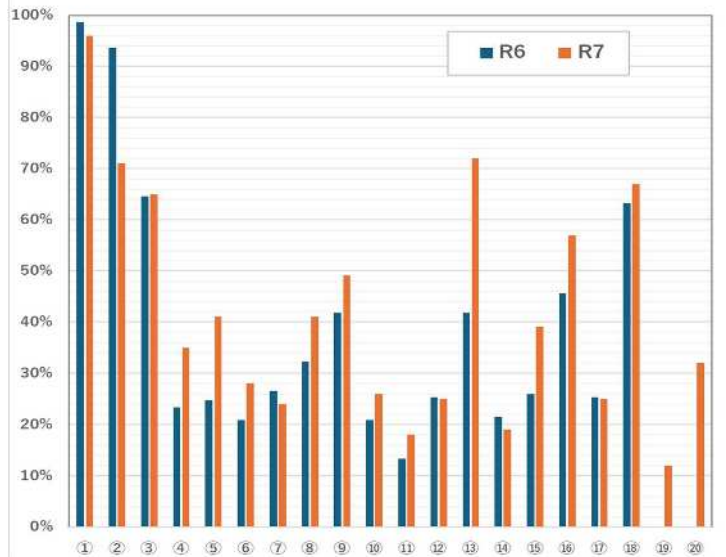
【進捗状況】 進捗の加速と取組状況のばらつきが明確に！

右図は、小学校が回答した架け橋プログラムの進捗状況について、令和6年度と令和7年度の結果を示したものです。フェーズ1の学校数は92校から49校へと半減し、フェーズ2・3の学校数は約3分の1から3分の2近くまで増加しています。これは、多くの学校で架け橋プログラムの取組が着実に進んでいることを示しています。一方で、依然としてフェーズ1以下にとどまる学校が52校あり、全市の約3分の1を占めています。学校ごとに取組の進み具合にばらつきが見られ、これら52校における架け橋プログラムの推進・充実が、今後の大きな課題と言えます。



【取組内容】 昨年度より、多くの項目で実施校数が増加!

	R6	R7
① 入学前の新1年生、または入学後の1年生の情報共有	99%	96%
② 入学してくる5歳児が、4月からの小学校生活に安心感や期待感をより持てるような半日入学の工夫	94%	71%
③ 入学後のスタートカリキュラムの実施	65%	65%
④ 共通の視点や目指す子ども像などの共有のための架け橋ミーティング	23%	35%
⑤ 幼保小の取組に関する年間計画等についての架け橋ミーティング(日程調整会議)	25%	41%
⑥ 架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業実践	21%	28%
⑦ 幼児期の育ちや学びを意識した授業実践	27%	24%
⑧ 就学前施設向けの公開授業	32%	41%
⑨ 就学前施設の保育参観	42%	49%
⑩ 公開授業・保育参観前後の協議会や研修会	21%	26%
⑪ 教員と就学前施設の保育者との合同研修(理論研修や実践交流等)	13%	18%
⑫ 自校教職員対象の「幼保小の連携・接続」に関する校内研修	25%	25%
⑬ 子ども同士の交流(5歳児と1年生)	42%	72%
⑭ 子ども同士の交流(◎を除く幼児と小学生)	22%	19%
⑮ 交流の事前・事後協議(どちらか一方でも可)	26%	39%
⑯ 運動会・学習発表会などの学校行事への就学前施設の参加・参観(保育者または園児)	46%	57%
⑰ 運動会・生活発表会などの就学前施設の行事への小学校の参加・参観(教員または小学生)	25%	25%
⑱ 学校間より等の配布物の交流	63%	67%
⑲ 5歳児の保護者対象の取組(半日入学を除く保護者説明会や授業公開・オープンスクール等)		12%
⑳ 保護者や地域への情報発信		32%



子ども同士の交流 大幅拡大! 今後は互恵性のある交流へ!!

- 多くの項目で増加がみられ、特に「⑬子ども同士の交流(5歳児と1年生)」は30%増加し、全体の72%の小学校で実施されました。これは、各校での取組が着実に進んでいることの表れと言えます。
- 進捗状況では、「フェーズ1」に位置付けられる学校が約30%を占めました。子ども同士の交流は、架け橋プログラムの“はじめの一步”となる取組です。日程調整などの課題はあるものの、まずは交流から取りかかることが有効ではないでしょうか。
- 子ども同士の交流は、5歳児が“お客さん”になってしまうなど、形式的になりがちです。5歳児と1年生の双方に学びが生まれる、互恵性のある交流へと発展させていくことが重要です。
- 連携園数が多い場合や、学校規模などの事情から交流が難しい学校もあると考えられます。そのような学校では、まずは保育・教育の相互理解を深める取組を充実させることが有効です。

入学する全ての園・校と情報共有を!

「情報共有する園・校」と「架け橋として連携・接続する園・校」は分けて考えましょう!!

- ①情報共有の実施率は95%以上と高いものの、依然として100%には達していません。近年、支援を要する児童が増加しており、入学前後の情報共有は幼保小の双方にとってますます重要な取組となっています。そのため、校区外の就学前施設も含め、確実な連絡・調整が必要です。
 - 京都市の架け橋プログラムでは、連携・接続の範囲を原則※として「小学校区」としています。就学前施設によっては、5歳児の進学先が複数の小学校に分かれるため、全ての進学先を「連携・接続する学校」と捉えて取組を進めようとする場合があります。しかし、複数校と連携・接続を行うことは内容や日程調整が難しく現実的ではありません。そこで、「情報共有を行う校・園」と「架け橋プログラムの連携を行う校・園」を明確に分けて整理することが必要です。全ての園・校と情報共有を行いつつ、そのうえで、架け橋プログラムとしての具体的な連携は、関係性や実施のしやすさに応じて重点化することで、より効果的で無理のない取組が可能になります。
- ※ 従来から校区外の小学校と交流等を行っている就学前施設もあることから、地域の実情を踏まえ「原則」としています。

全小学校区で架け橋ミーティングの開催を!... 校園長間で関係性の構築から始めよう!!

- ④目指す子ども像の共有と⑤年間計画(日程調整)の架け橋ミーティングは、昨年度から10%以上増加しました。取組を進める上で、顔の見える関係を築き、「地域で子どもたちをどのように育てていくのか」「何を大切に保育・教育を進めていくのか」を共通理解しながら計画を立てることは極めて重要です。架け橋ミーティングは、架け橋プログラムの中心であり、基盤となる取組です。しかし、実施校は増加したものの、全体ではまだ40%前後にとどまっています。年度当初は学校も園も多忙で調整が難しい面はありますが、全ての小学校区で架け橋ミーティングを開催していただくことを強く期待しています。

れっつ ちゃれんじ!!

令和8年4月・5月にスタートカリキュラムの授業公開を実施!!

スタートカリキュラム(以下、スタカリ)は1年生が入学後に安心して自己を発揮し、小学校生活へ円滑に適應するためにも、極めて重要な役割を果たします。そのため、現行学習指導要領の総則に位置づけられていますが、全校で十分に実施されている状況には至っていません。教育委員会としても、スタカリの全校実施および改善・充実を喫緊の課題として位置付けています。そのため、令和8年4月・5月には、新たな取組としてスタカリの授業公開等を計画しています。年度当初でお忙しい時期とは存じますが、ぜひ御参加いただき、スタカリの充実に向けた参考としてください。また、以下の資料も積極的に活用してください。

『スタートカリキュラムの手引き』(京都市教職員ポータルサイト > 光イントラ > 各課のページ > 学校指導課)

『架け橋通信 11号・12号』(3/11 掲示板に再掲)